

## 事業報告書（令和7年度）

事業名       たけべ空き家活用プロジェクト      

団体名       たけべ家おこしプロジェクト       担当者名       大塚      

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容（日時、場所、講師、参加対象者、人数、内容等）

- ① 2025年6月30日。場所：建部中学校。参加者：中学生7名、教師1名、当会メンバー3名、移住者1名。探究学習に空き家活用をテーマに取り組まれることになり、中学生が自ら調べた空き家問題についての発表を聞いた上で意見交換を行った。その後、福渡商店街にて空き家の様子を見てまわったり、中を見学させてもらったりした。





② 2026 年 1 月：勉強会の周知のためのチラシ印刷、建部町内全戸配布の手配

③ 2026 年 2 月 28 日(土) 13：30～15：00、建部町公民館にて空き家対策セミナーの開催

講師：森谷公裕さん（岡山市空き家対策推進室長）、大橋健次さん（御津在住）

参加人数：25 名

内容：講演では、岡山市の空き家の現状、法改正のポイント、空き家バンク制度、各種助成金について聞いて、実際に空き家バンク制度を使って、知人の空き家が活用につながった事例についてのお話を聞いた。その後、質疑応答では、特定空き家の実際や、町内会単位で空き家活用をして宿泊施設をしている事例などについて、質疑が行われた。



## 2. ESD の視点

① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

勉強会では、空き家バンク制度の実際を聞いて活用への関心が高まったり、受け入れ側の地域の要望（例：町内会への所属や草刈りの参加など）を不動産業者を通じて伝えることができた事例を聞いて、より安心できる受け入れ方法について知ることができた。

また、中学生の活動では、空き家という課題について実践を通じて、地域の課題である空き家対策に関心を持ってもらうことができた。

②どのように学び合いを取り入れたか

中学生が地域の空き家問題について自ら調べて、大人と意見交換をした上で、活動計画を立て、移住者が住む古民家の滞在を体験したり、空き家を使ったイベントを開催した。空き家についての理解を深めることができた。

② どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

中学生が空き家活用のために考えたアイデアに沿って、移住者の住む古民家での滞在体験を実現できるようマッチングを行ったり、空き家を活用して子どもが参加できるイベントを実施できるよう、持ち主の方と調整を行った。

また、空き家対策の勉強会では、アンケートで空き家バンクについての質問項目を設けたところ、この制度を使ってみたい、または知人に教えてあげたいという回答が多く得られた。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

地域の中に増えつつある空き家に対して、個人の問題だけではなく、地域としての課題認識をもって考えていくことが必要だが、勉強会では自らの持ち家について悩んでいる方だけではなく、地域のために空き家のことを学びたいという思いで参加された方も多く、今後の地域の在り方に活かされるものとする。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

空き家対策について少しずつ地域の関心が高まっているが、活用に繋がっていない空き家はまだまだ多く存在し、今後 5～10 年のうちにさらに空き家が増えるので、空き家対策をなんとかしなければと感じている方も多い。また空き家対策は、移住定住と両輪で進めないと解決しない問題だが、移住希望者が訪れてもなかなか条件に合う家を見つけられないなど、さらなる情報収集や情報発信が必要な状況にある。今年度実施できなかった移住定住に向けた情報発信や空き家対策の啓発に向けて今後も取り組んでいきたい。